

梨(なし)

いなぎの特産品（とくさんひん）の梨（なし）についてしょうかいします。



稲城(いなぎ)の梨(なし)づくりのはじまり

古いきろくはありませんが、梨（なし）づくりのはじまりは、江戸時代（えどじだい）・元禄年間（げんろくねんかん）（1688年～1704年）までさかのぼるようです。

長沼村（ながぬまむら）の代官（だいかん）、増岡平右衛門（ますおかへいえもん）と川島佐治右衛門（かわしまさじえもん）の二人が、山城国（やましらのくに）（今の京都（きょうと））の方からもち帰った「淡雪（あわゆき）」というひんしゅのなえを村内にうえたのがはじまりとつたえられています。

清玉園（せいぎょくえん）には、稲城（いなぎ）の梨（なし）づくりのはじまりをつたえる「多摩川梨発祥之地（たまがわなしはっしょうのち）」の碑（ひ）が立っています。 どんねんながら、原木（げんぼく）はないそうです。

梨(なし)づくりのはじまりがわかる本

「稲城（いなぎ）の梨（なし）づくりのはじまり」でしょうかいした内容（ないよう）は、次の資料（しりょう）をさんこうにしています。

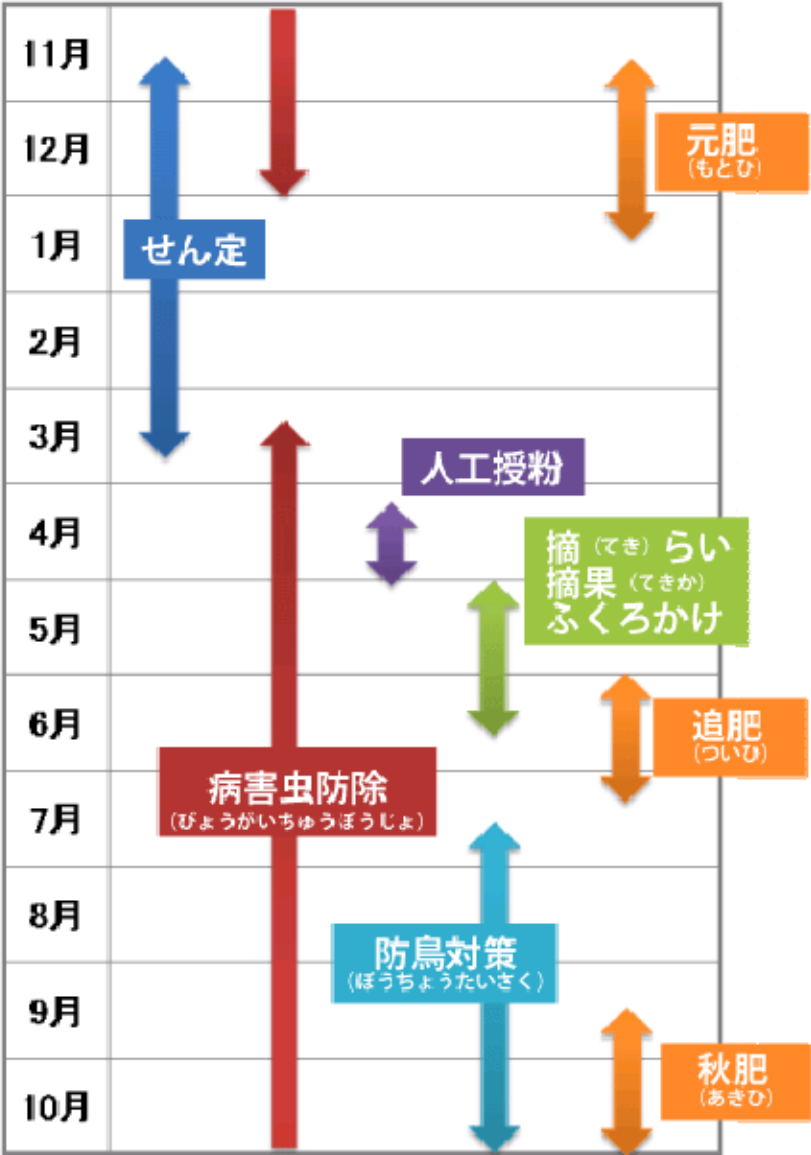
- 「文化財ノートNo. 35」

(ぶんかざいのーと ナンバー35)

- 「多摩川梨変遷史」
(たまがわなしへんせんし)
- 「稲城市史」
(いなぎしし)
- 「稲城市ホームページ」 稲城の特産品・文化財コラム
(いなぎしほーむぺーじ いなぎのとくさんひん・ぶんかざいこらむ)
- 「東京多摩川 梨の歩み」
(とうきょうたまがわ なしのあゆみ)

稲城(いなぎ)の梨(なし)づくり

稲城（いなぎ）での一年の梨（なし）づくりの方法（ほうほう）をしょうかいします。



作業(さぎょう)の説明

せん定(せんてい)

(11 月中じゅん～3 月上じゅん)

よぶんな枝(えだ)を切りおとします。

梨(なし)の実(み)にたいようの光が十分にあたるようにせいりし、たくさんの実(み)がしゅうかくできるようにするためです。

病虫害防除(びょうがいちゅうぼうじょ)

(3 月中じゅん～12 月)

梨(なし)に害(がい)をあたえる虫(害虫・がいちゅう)やびょうきから梨(なし)をまもるため、稲城(いなぎ)どくじの防除暦(ぼうじょれき)がつくられています。

かんきょうやあんぜん)のため、農薬(のうやく)の使用(しょう)を少なくしています。

人工授粉(じんこうじゅふん)

(4 月中じゅん～下じゅん)

梨(なし)は、自分の花粉(かふん)では実(み)をつけることができません。

ハチなどの花にくる虫たちまっているだけでは、うまくどの花にも虫たちがきてくれるかわかりません。そこで、人の手で花に花粉(かふん)をつけます。

授粉(じゅふん)は凡天棒(はんでんぼう)でおこないます。

稲城(いなぎ)の小学生がこの作業(さぎょう)を手つだうようすは、よく新聞でしょうかいされます。

摘(てき)らい

(4 月中じゅん)

よい梨(なし)をつくるために、つぼみの数をへらします。

摘果(てきか)

(5 月～6 月上じゅん)

よい梨(なし)をつくるために、実(み)の数をへらします。

ふくろかけ

(5 月中じゅん～6 月中じゅん)

びょうきや虫や鳥の害(がい)をふせいだり、きれいな実(み)をつくるために、梨(なし)の実(み)にふくろをかけます。

防鳥対策(ぼうちょうたいさく)

(7月下じゅん～10月)

梨園(なしえん)全体に網(あみ)をかけます。 むくどり、おなが、ひよどり、すずめ、からすなどの鳥から梨(なし)をまもります。

追肥(ついひ)

(9月中じゅん～10月)

梨(なし)の実(み)が大きくそだつ時期(じき)にやる肥料(ひりょう)です。

秋肥(あきひ)

(9月中じゅん～10月)

梨(なし)のしゅうかくが終わった時期(じき)にやる肥料(ひりょう)です。

梨(なし)の木のつかれをかいふくさせて、らいねんにそなえるためのひりょうです。

元肥(もとひ)

(11月下じゅん～1月上じゅん)

肥料(ひりょう)の中心で、骨分(こつぶん)、魚粉(ぎょふん)、菜種粕(なたねかす)、大豆粕(だいずかす)などの有機配合肥料(ゆうきはいごうひりょう)が多くつかわれます。

また、土のかいりょうのためには、堆肥(たいひ)も多くつかわれます。

梨(なし)づくりがわかる本

「稲城(いなぎ)の梨(なし)づくり」でしようかいした内容(ないよう)は、次の資料(しりょう)をさんこうにしています。

- 「文化財ノートN o. 37」
(ぶんかざいのーと ナンバー37)
- 「ナシの絵本」
(ナシのえほん)
- 「多摩川梨変遷史」
(たまがわなしへんせんし)

稲城(いなぎ)の梨(なし)のしゅるい

稲城(いなぎ)でさいばいされている梨(なし)のしゅるいは、約20しゅるいです。稲城(いなぎ)の農家(のうか)の人は、とてもけんきゅうねっしんで、稲城(いなぎ)で生まれた梨(なし)もいくつかあります。お店(みせ)で買うことができる稲城(いなぎ)生まれの梨(なし)は2つです。

品 種 (ひんしゅ)	収 穫 時 期 (しゅ う か く じ き)	特 徴 (とくちょう)
稲 城 (いなぎ) 	8 月 下 じ ゅ ん ～ 9 月 上 じ ゅ ん	にんきが 高い！ 大きいものはソフトボール大。 収 穫 (しゅ う か く) の 時 期 (じ き) が み じ か く、生 産 量 (せいさんりょう) が 少 ない の で、「幻の梨」(まぼろしのなし) ともいわれています。新高(にいたか)と八雲(やくも)の人工交配(じんこうこうはい)で生まれました。
清 玉 (せいぎょく) 	8 月 下 じ ゅ ん ～ 9 月 下 じ ゅ ん	二十世紀(にじゅっせいき)と長十郎(ちょうじゅうろう)人工交配(じんこうこうはい)で生まれました。黄緑(きみどり)色で、熟(じゅく)すと黄金(こがね)色になります。

梨(なし)のしゅるいがわかる本

「稲城(いなぎ)の梨(なし)の種類(しゅるい)」でしようかいした内容(ないよう)は、次の資料(しりょう)をさんこうにしています。

- 「文化財ノートNo. 37」
(ぶんかざいのーと ナンバー37)
- 「東京多摩川 梨の歩み」
(とうきょうたまがわ なしのあゆみ)
- 「稲城市ホームページ」 稲城の特産品・文化財コラム
(いなぎしほーむぺーじ いなぎのとくさんひん・ぶんかざいこらむ)

梨(なし)のデータ集(しゅう)

梨(なし)を作っている農家(のうか)の数、梨(なし)を作っているはたけ

のひろさは？

梨(なし)を作っている農家(のうか)の数は、栽培農家数(さいばいのうかすう)とい
います。梨(なし)を作っているはたけのひろさは、栽培面積(さいばいめんせき)とい
います。これは、「統計いなぎ(とうけいいなぎ)」をみてください。

- 「統計いなぎ」平成19年度版(ばん)
(平成7年、12年、17年のデータがのっています)

梨はどのくらいとれるの？

梨のとれるりょうは、収穫量(しゅうかくりょう)といえます。梨(なし)の収穫量(し
ゅうかくりょう)は、「多摩の農業統計(たまののうぎょうとうけい)」をみてください。

- 「多摩の農業統計」平成20年度3月版(ばん)
(平成18年のデータがのっています)
-

梨(なし)のリンク集(しゅう)

梨(なし)についてのリンク集(しゅう)です。さんこうにしてみてね。

 マークがあるリンクは、新しい画面(がめん)が開きます。

- 稲城市(いなぎし)ホームページ

[稲城\(いなぎ\)の特産品\(とくさんひん\)・梨\(なし\)](http://www.city.inagi.tokyo.jp/shoukai/tokusan/nashi/index.html) 

(<http://www.city.inagi.tokyo.jp/shoukai/tokusan/nashi/index.html>)

- 稲城市(いなぎし)の文化財(ぶんかざい)サイト

[梨\(なし\)づくりの歴史\(れきし\)](http://www.city.inagi.tokyo.jp/shoukai/rekishi/bunkazai/05_bun_02.htm) 

(http://www.city.inagi.tokyo.jp/shoukai/rekishi/bunkazai/05_bun_02.htm)

- J A東京(とうきょう)みなみサイト

[J A東京\(とうきょう\)みなみ](http://www.ja-tm.or.jp/) 

(<http://www.ja-tm.or.jp/>)